單顎類 (Colobognathia) の 1 新屬新種

高 桑 良 興 ・ 三 好 保 徳

Über eine neue Gattung und eine neue Art von Colobognatha aus Japan

YOSIOKI TAKAKUWA & YASUNORI MIYOSI

倍足類の 1 目、單顎類は全世界に僅か 5 科 15 属ばかりを産する小群で、種の數も現在までに發見されたものは 60—70 位であるがその分布は相當に廣くヨーロッパ、南アフリカ、中央アメリカ、南アメリカ、インド—オーストラリア、ニュージーランド等にわたっている。日本においては *Orsiboe ichigomensis* Attems (イトヤスデ) という只 1 属 1 種が 1909 年に記載されていたのみであつたが近年筆者の 1 人高桑の探究によつて 3 科 6 属 9 種を産することが明らかになつた。ところがさらに今回筆者の 1 人三好は愛媛縣松山市の東南方にある皿ヶ嶺から次に記載する 1 新屬新種を得たのである。想うに今後この目の属種はさらに多く日本の各地から發見されることであろう。今日までに知られている日本及び隣接地におけるこの目の動物の分布はボナベ、小笠原島、英彦山、釜山、皿ヶ嶺、京都附近、御岳等で栃木縣那須をもつて北の限界と考えることができる。北鮮、シベリア、沿海州には恐らく産しないであらうし、高桑がその相當數を調査した北支、山西省、滿洲の倍足類標品中にもついに本目の動物は檢出し得なかつた。世界の分布から見て本目のものは熱帶又はこれに近い地の産であるから日本及びその隣接地における今後の發見も多分上記の範圍を出ることはないであらう。因に高桑は長野縣赤倉附近の高原に於いて同定不能の ♀ 1 足を得ている。尙この研究は文部省の自然科學研究助成金の活用になるものであることを附記し感謝の意を表す。

Saraminozonium n. g. (Polyzoniidae)**サラヤスデ 属 (新稱)**

本属はチャスデ科 (Polyzoniidae) のイトヤスデ属 (Orsiboe) に近いもので、下に兩属を比較対照するならば：a) 頭部は頸板で深く蓋われていないことは兩属において同じであるが本属では頭の前端がさほど尖らず、よつて頭部全體が心臟形をなし (Fig. I. a), Orsiboe 属のように吻狀に突出していない。

b) Orsiboe 属では各側觸角の後方に 3 個の眼を具えているが本属では各側に 4 個の眼をもっている。兩属共にこれ等の眼は 1 列をなしてなっている (Fig. I. a)。

c) 觸角の末端節にある感覺圓錐體は Orsiboe 属では低く疣狀であるが本属では他の倍足類で普通に見えるものゝように尖つている (Fig. I. b)。

d) 顎唇は分節構造を明らかにしないこと兩属同じである (Fig. I. C. D)。

e) Orsiboe 属の背板は相當に強く弓狀に凸隆しているが本属ではその度が低く側板と接着してなす角度は約 30° である (Fig. I. f)。

f) 兩属ともに臭孔は第 5 胴節から最後體節の 1 つ前の體節までの各體節にあり (Fig. I. g. h. i. j), 又氣門は第 4 胴節 (第 3 肢節) から各節に存在する。

g) 前生殖肢の胸板は Orsiboe 属にあつては中央において分離しているが本属では癒着して 1 片となつている (Fig. II. b)。

h) 前生殖肢は兩属共に 7 節よりなり、胸板及び基節は共に先端に毛ある突起物を具えているがその位置形狀は相違する (Fig. II. b)。

i) 前生殖肢の末端節は本属においては細長くやゝ外方に彎曲し先端近くに若干の剛毛あり、Orsiboe 属にては有毛の辨片となつている (Fig. II. b. c)。

j) 後生殖肢は 6 節よりなり、第 1 より第 5 節までは正常の節であるが、第 6 節は鞭狀で長い (Fig. II. g)。

Saraminozonium okai n. sp.

オカサラヤステ (新種)

體：體長18—20 mm。體幅約5 mm。胴節♀53—60個，♂48—63個。體色は黄朱色或は黄褐色。背板の正中及びその兩側には暗色々素による不明瞭な縦走線あり。胴部は甚だ扁平，體幅は體の前後において略同様でその兩端は急に圓く

Fig. I Saraminozonium okai n. sp.

(a) Kopf, vom Rücken gesehen. (b) Endglieder einer Antenne. (c) Vorderende des Körpers, von unten. (d) vorderstes Gebiet des Gnathochilarium, von unten. (e) 3 Rumpfssegmente, von oben. (f) Querschnitt durch ein Segment. (g) Vorderende des Körpers, von oben ♀. (h) 3. 4. 5. 6. Seitenflügel. (i) Hinterende des Körpers, von oben ♀. (j) Hinterende des Körpers, von unten.

a) 頭部背面 b) 觸角の先端部 c) 前体部腹面 d) 顎唇の前端 e) 3個の背板
f) 体節の横断面 g) 前体部背面♀ h) 第3. 4. 5. 6背板の側縁♀ i) 後体部背面
♀ j) 後体部腹面

なつて終るところの長橢圓形に近い。背板は弓狀に凸隆し、それを背面から見て3分する假想線において僅かに凹む(Fig. I. e)。體の横斷面は Orsiboe 屬より扁平で、その垂直の徑と左右の徑との比はおよそ 1:3 (Fig. I. f)。頭部の後縁は頸板で少しおゝわれ、頭部全體が腹方へ多少曲つている。左右觸角の後背には1列をなして4個の眼あり (Fig. I. a)。觸角は茶褐色、長大、先端にいたるにしたがつてやゝ太く、その第3と第6節とは最も長大なり。觸角の先端第8節にある4個の感覺圓錐體は一般倍足類のものゝ如く尖つている (Fig. I. b)、そして各節には微毛多く生ず。大顎は甚だ小形、頰部と前大顎部とに分たれて

Fig. I Saraminozonium okai n. sp. ♂

(a) 7. u. 8. Segment, von unten. (b) Vorderer Gonopode. (c) Endglied des vorderen Gonopoden, stärker vergrößert. (d) Ein Sternit mit Stigmen, Tracheentaschen und Basen der Beine. (e) Basis des 9. Bein. (f) 8. Bein des ♂. (g) Hinterer Gonopode. (h) Die Geschlechtsdrüsen hinter den Hüften des 2. Beinpaars ♂.

a) 第7第8体節の腹面 b) 前生殖肢 c) 前生殖肢の先端 d) 氣管とその開孔
e) 第8体節の第2對肢の基部 f) 第7体節の第1對肢 g) 後生殖肢 h) 第2歩肢の基部に開く生殖腺

いる。顎唇には分節的構造が明らかでない。顎板は左右側が尖る卵形で次につ
 ずく背板より横徑において小なれども縦徑においてやゝ大なり (Fig. I. g)。背
 板、側板及び胸板は滑らかで刺毛を缺き又互に癒着することなく接着している
 (Fig. I. f)。臭孔は第5胸節から最後の一つ前の節までの各節にあり、その各節
 において横縫合線及び體側縁より少し離れて後環節上に位置するが只第5胸節
 においてのみ例外的に前環節上において横縫合線近くにあり (Fig. I. g. h. i. j)。
 肛門節の前の3個の胸節には歩肢はない (Fig. I. j)。♀♂共に第3から最後歩
 肢まで基節腺を具えている。♂の第2歩肢の基節には後方へ突起する圓錐形の
 生殖腺が開いている (Fig. I. c, Fig. II. h)。總べての歩肢は短くてのばしても
 體側縁に達しない。歩肢の各節には短い刺毛がまばらに生じ先端部の節々の背
 側のものは基部において歩肢の先端の方へ曲るやゝ強力な毛である (Fig. II. f)。
 各歩肢爪をもつて終る。

前生殖肢：第7胸節の第2對肢が變化したもの、胸板は正中に縫合線をのこ
 すことなく癒合、その左右端に近くは後方へ突出する大なる瘤狀突起あり、
 その先端には多くの毛が曲生している。端肢は7節、その第1節には又後内方
 へ向う長い指狀突起があつてその先端には若干の毛あり。第2節は極めて短か
 く、第3第4第5節は略同長、第6第7節はそれ等に比して細くかつ約2倍の
 長さあり。第3から第6節にいたる各節の末端には若干の毛あり、第7節の末
 端は爪狀突起に終りその附近に6本内外の剛毛あり (Fig. II. a. b. c)。

後生殖肢：第8胸節の第1對肢が變化したもの、6節からなり第1より第5節
 までは正常の節をなし長さにおいても大なる相違なきも第6節は長い鞭狀をな
 しその基部はすこし肥大している (Fig. II. g)。

產地：皿ヶ嶺 (愛媛縣上浮穴郡)

この動物の同定を了した日は正に恩師丘淺次郎博士の御命日であつたのでこ
 ゝに先生を懷慕申し上げるの意をもつてこの種名を奉り、屬名は本動物の採集

地血ヶ嶺を記念せんとするものである。

Saraminozonium n. g. (Polyzoniidae)

Diese Gattung gehört zu den Polyzoniidae, unter denen sie am nächsten mit *Orsiboe* Attems verwandt ist. Beide Gattungen unterscheiden sich folgendermassen: Bei *Saraminozonium* ist der Rüssel kurz und stumpf, jederseits 4 Ocellen, die Sinneskegel der Antennen sind spitzig, wie bei Diplopoden normal. Die Ventralplatte des vorderen Gonopodenpaares ist nicht geteilt in der Mediane und jede Seite bildet einen runden, beborsteten Höcker; bei *Orsiboe* ist der Rüssel spitz, jederseits mehrere (3) Ocellen, die Sinneskegel der Antennen sind niedrig, warzenförmig. Die Ventralplatte des vorderen Gonopodenpaares ist eine schmale, in der Mediane geteilte Querspange. Jede Hälfte bildet neben der Medianlinie einen kleinen, runden, beborsteten Höcker.

Genotypus: *Saraminozonium okai* TAKAKUWA et MIYOSI

Saraminozonium okai n. sp. 18–20mm lang, etwa 5mm breit, mit ♂ 48–63 und ♀ 53–60 Rumpfringen, braungelblich oder gelbbinnoberrötlich (im Leben). Kopf kegelförmig jederseits 4 Ocellen in einer schrägen Reihe (Fig. I a). Das Gnathochilarium ist aus einer unsegmentierten Platte gebildet (Fig. I c). Die Antennen sind ziemlich gross, aber am Ende nur wenig verdickt. Die ununterbrochene Reihe der Wehrdrüsenporen beginnt auf dem 5. Segment und reicht bis inklusive zum vorletzten (Fig. I g, i). Die hintersten 3 Rumpfsegmente und Analsegment sind fusslos (Fig. I j). In beiden Geschlechtern haben alle Laufbeine vom 3. bis letzten Paare die bekannten Coxalsäckchen, und münden die Geschlechtsdrüsen hinter den Hüften des ♂ 2. Beinpaares (Fig. II h).

Kopulationsfüsse: Die Ventralplatte des Vorderen Paares nicht geteilt (v, Fig. II b), jede Seite bildet einen grossen, runden, beborsteten Höcker. 1. Glied (Coxa) kurz, mit einem langen, beborsteten Fortsatz. Das 2. Glied (Trochanter) sehr kurz, das 7. Glied schlank, mit vielen starken Borsten und einem krallenförmigen Endla-

ppen (Fig. I b, c). Die hinteren Gonopoden 6-gliedrig. Das 1.-5. Glied hat ungefähr die Form normaler Beinglieder, das letzte Glied ist sehr lang und dünn ausgezogen (Fig. I g).

Fundort : Berge Saraga-Miné (Ehimé-Kén).

Diese Art sei Dr. Asajiro Oka gewidmet.

舊日本産蠍目目録*

高 島 春 雄

財団法人 山階鳥類研究所

A list of scorpions found in the adjacent territories of Japan

Haruo Takashima

前稿「東亞地域に於ける全蝎目」(本誌第9巻第3/4號掲出)の中でキョクトウサソリ, マダラサソリ, ヤエヤマサソリは「詳細の synonymy は日本學術振興會より出版せらるべき『日本動物目録』に掲けて置いたから茲には略す」と豫告して置いた。然るに日本動物目録編纂の事業は空襲, 敗戦のお蔭で中止となり私が擔當提出した原稿(蝎目, 脚蟷目, 多足類の一部)は資源科學研究所で焼失した。手許に残つた控を頼りにサソリ目の部分のみもう一度書いてみたのが之である。昭和19年の秋頃提出したので列擧した文献も其の頃までのに止まる。茲にいふ舊日本とは戦前の日本のことで, 新日本の範圍ではサソリは日本の動物と云へなくなつた。蝎目 Scorpionida は節足動物門蛛形綱の1目である。

* 東亞産全蠍類脚蟷類の調査(其の十八)